



日本の社会構造は大きな変革期にあります。少子高齢化や核家族化の進行、地域コミュニティの希薄化に伴い、地域から孤立してしまう方や、直面する課題が複雑化・複合化して、従来の福祉制度では支援が届きにくいケースが顕在化してきました。

そのため、本区は令和4年3月に「江東区地域福祉計画(令和4年度～7年度)」を

策定し、地域・行政・地域と行政の3つのつながりをつくり、困りごとを抱える方が必要な支援を受けられる体制の構築に努めてきました。

こうした取組をさらに加速化するため、前回策定時からの社会環境の変化や、これまでの区の取組状況、区民や関係団体のみなさんからのご意見も十分に踏まえながら、「第2期江東区地域福祉計画」を策定しました。

本計画では、コロナ禍以降に浮き彫りになった孤独・孤立対策と、包括的な支援体制の充実(重層的支援体制整備事業)を新たに「施策を横断する取組」と位置づけ、誰も取り残さない支援体制づくりを一層推進していくこととしています。

今後も、誰もが生きがいを持って安心して暮らすことのできる地域共生社会の実現に向け、地域福祉の主役である区民のみなさんとともに取り組んでいきます。

結びに、本計画の策定にあたり、熱心にご議論をいただきました江東区地域福祉計画推進会議のみなさん、アンケートや意見募集にご回答をいただきました区民・関係団体のみなさんに厚くお礼申し上げます。

令和8年3月

江東区長
大久保 朋果



「江東区地域福祉計画」(令和4年度～7年度)の取組状況と成果、区民・団体等の意見を踏まえた課題を整理し、近年の地域福祉を取り巻く動向も踏まえながら、施策や取組を見直し、「第2期江東区地域福祉計画」(令和8年度～11年度)(以下、「本計画」)を策定いたしました。

区民一人ひとりの尊厳が守られ、地域でともに支えあい、誰もが笑顔で安全に暮らせるまちをめざす本計画は、「地域のつながり」「行政のつながり」「地域と行政のつながり」の3つのつながりを育み、誰もが大切にされる社会をつくり、地域福祉の基盤を築くことを柱としています。行政と地域、そして人と人の結びつきを深め、支援の質と情報活用を高めながら、日常生活での困りごとから災害時まで、安心できる地域づくりを推進するための計画です。

策定にあたっては、現場の声と多様な立場の意見を尊重し、実践につながる計画とすることを目指しました。区民のみなさんとともに、この計画を育てながら、支えあうまちづくりに寄与して参りたいと思います。

令和8年3月

江東区地域福祉計画推進会議
会長 長倉 真寿美

